令和６年度　磐田市立磐田第一中学校　学校評価書

重点	目標・取組	評価指標		自己評価	考察・改善点等	学校関係者評価委員より
「誇り高く（自律）、心しなやかに（共生）、夢はぐくむ（自立）生徒の育成」を目指す教育活動の推進	(1) 一人一人の特性に応じたインクルーシブ教育システムの充実と組織的な対応・支援の展開 (2) 主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善（Nスタイル） (3) コミュニティ・スクールを基盤とした「なかいずみ学府小中一貫教育」の推進 (4) 保護者、地域への情報発信と、地域の教育力を生かした教育活動の推進	1	・学校教育目標「誇り高く 心しなやかに 夢はぐくむ生徒の育成」を意識して教育活動に取り組んでいる。（教師）	A	**「目指す子どもの姿の共通理解」** **分析項目１ 教 師　95%** **項目２ 教 師　98%** ○学校で目指している子どもの姿や教育内容について、職員間で共通理解を図りながら教育活動に取り組むことができた。保護者、地域住民が学校の教育活動を直接目にする機会も昨年度より増えた。 ※今後も授業公開日、学校行事、学校・学年・学級だより、ホームページ等を有効活用しながら、学校の教育活動の情報を保護者の方や地域の方に広く伝えていきたい。 **「生徒の心に寄り添う生徒指導」** **分析項目３ 教 師　98%** **項目４ 教 師　90%** **項目５ 生 徒　90%** **項目６ 保護者　87%** ○今年度も「学校を楽しい」と考えている生徒が９割を超えており、大多数の生徒にとって学校が安心・安全な場であることが分かる。 ※「楽しい」と感じられていない生徒への支援と共に生徒に寄り添う生徒指導を継続し、学府で取り組んでいるレジリエンスを高める取組をさらに推進していきたい。 **「学びを深める授業改善」** **分析項目７ 教 師 88%** **項目８ 生 徒　91%** **項目９ 生 徒　84%** ○研修の個別最適化により校内研修へ主体的に取り組む職員が増え授業改善にもつながった。 ※ＮスタイルやICT機器の効果的な活用等を通して個に応じた支援の充実をさらに図っていきたい。 **「小中一貫教育の推進」** **分析項目10　生 徒 80%** **保護者 71%** **教 師 58%** **項目11 生 徒 84%** **項目12 保護者 89%** ○小中一貫教育のよさを実感しながら学府の取組が進めれているが、学府で取り組んでいる気持ちのよいあいさつには、生徒・教師・保護者ともに課題が残った。 ※生徒会が主体となった取組やＰＴＡあいさつ運動などを通して気持ちのよいあいさつが溢れる学校を今後も目指していきたい。	○校長先生から説明があった一中が目指す目標を達成するための教育活動に地域も協力していきたい。一中の伝統を大切にしながらも昨年度の校則の見直しなど時代や社会の流れに沿った改革にも期待している。 ○生徒に寄り添う一中の生徒指導方針は大変よいと思う。全国的に不登校生徒が増加傾向にある中、一中は減ってきているのも納得がいき、大変うれしく思う。不登校生徒への対応については、生徒にとって楽しい学校、楽しい学級、楽しい行事をつくることが大事。一中には昔から力がある先生が多いので実現できるはず。 ○学府の取組として「あいさつ」に取り組んでいることはとてもよいと思う。学校だけでなく地域の人への気持ちのよいあいさつにも期待している。また、レジリエンス育成の取組も時代に合っていてよいと思うがレジリエンスという言葉が分かりにくく感じる。保護者や地域にもわかりやすく伝えることもお願いしたい。 ○職場体験、赤ちゃん登校日など地域とつながる教育活動について一中の生徒でよかったという生徒の声をよく聞く。保護者からの評判もよい。一中の先生と関わる中でプロフェッショナルだと感じる。保護者・地域と一緒になってつくる学校行事などを継続し、生徒主体の教育活動を進めてほしい。
		2	・目指す資質・能力である「自律」「共生」「自立」を育成している。（教師）	A		
		3	・本校の生徒指導方針を受け、問題を抱える生徒や保護者に適切に関わろうとしている。（教師）	A		
		4	・レジリエンスを高める取組を行うことができた。（教師）	A		
		5	・学校では、楽しく生活しています。（生徒・保護者）	A		
		6	・教師は、子どものことについての相談に適切に応じている。（保護者）	B		
		7	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、対話で目指したい姿を意識して授業改善を進めることができた。（教師）	B		
		8	・先生は分かりやすく教えてくれる。（生徒）	A		
		9	・学んでいることが自分の力として身についている。（生徒）	B		
		10	・進んで気持ちの良いあいさつをしている。（生徒、保護者、教師）	C		
		11	・学府の他校の先生や友達との交流することのよさを感じている。（生徒）	B		
		12	・学校は、保護者や地域の方の協力を得て教育活動を進めている。（保護者）	A		

重点	目標・取組	評価指標				自己評価	考察・改善点等	学校関係者評価委員より
自律	自ら考え、適確に判断して行動する生徒の育成	13	・授業でじっくり考えたり表現したりしている。（９１％）	生徒	85.0%	B	○「授業でじっくり考えたり表現したりしている」の項目については、生徒、教師の評価が昨年度よりやや低下した。 ※授業において思考を深めたり互いに学んだりする場面を意図的に設定していきたい。 ○自ら考え、正しく判断して行動する力を育むための「家庭学習」に関する項目については、経年的に課題となっている。 ※本校の生徒会が定めた生徒会員の姿の一つに「何事にも粘り強く主体的に取り組み、学業や運動等に励む姿」とある。粘り強く自ら学ぼうとする姿勢は本校が大切にしているものである。教師の側も授業とリンクした段階的な家庭学習の提示、自ら選んで苦手分野に取り組む家庭学習、興味・関心に応じた発展的な家庭学習など家庭学習の個別最適化について研修していきたい。	○学校評価の数値が下がっているものもあるが生徒の成長は学校だけが責任を負うものではない。保護者や地域住民がやらなければならないこともある。これからも一中の教育活動を支えていきたい。 ○普段の授業や家庭学習も大事ではあるが、「ようこそまちなか先生」のように地域の社会人から子どもたちが学ぶような機会も貴重である。地域の社会人も一中の教育活動に参加することで得るものは多いのでお互いにとってよい機会となっている。
				保護者	未実施			
				教師	83.9%			
		14	・家庭学習の習慣が身についている。（６５％）	生徒	74.4%	B		
				保護者	62.9%			
				教師	51.6%			
共生	多様な個性を受容し、協働して課題を解決する生徒の育成	15	・相手の気持ちを考えた温かな言葉遣いをしている。（９３％）	生徒	89.6%	B	○温かな言葉遣いに関しては、保護者、教師の評価が改善した。今後も温かな言葉遣いはその都度称揚し、保護者とも協力しながら丁寧に指導していきたい。 ※また、道徳科の授業やレジリエンストレーニング等を通して、思いやりの心や礼儀、公共の精神、集団生活の充実など、人としての生き方を深めることを意識できる教育活動を改めて大切にしていく必要がある。 ○体育大会や合唱コンクールの企画・運営を昨年度よりも生徒に委ねる中で開催することができ、生徒の満足度も高かった。 ※今後も学級における居場所づくり、絆づくりを大切にし、生徒が自己有用感を感じられるよう、認め、励ましていきたい。また生徒が主体的に取り組む生徒会活動をさらに推進し、生徒の達成感を高めていきたい。	○合唱コンクールを参観して一中生の歌声、立ち姿、聴く姿勢、吹奏楽部やわたしの主張に感動した。保護者もちろん地域のピアノの先生の参観も認める開かれた学校の姿勢が素晴らしい。吹奏楽部の地域行事での演奏や美術部のシャッターアートなどの活動は地域でも好評なので来年度以降も続けてほしい。
				保護者	86.0%			
				教師	90.3%			
		16	・学校行事や生徒会活動に集中して取り組んでいる。（９７％）	生徒	92.3%	A		
				保護者	92.4%			
				教師	100.0%			
自立	夢（こころざし）の実現に向けて粘り強く取り組む生徒の育成	17	・目標に向かって粘り強く取り組んでいる。（９２％）	生徒	85.9%	B	○目標に向けての粘り強い取組については、生徒、教師と比べ保護者の評価が大幅に低い。 ※目的意識を持ち地道に取り組む必然性がある活動を意図的に設定することが必要である。特別活動や総合的な学習の時間を中心に現在と未来をつなぐキャリア教育の充実を地域・保護者の力を借りながら図りたい。 ○総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなど探究的な学習活動を意識的に設定したこともあり、生徒と教師の学びの実感が高まったと考える。 ※今後も総合的な学習の時間を中心に探究的な学びのサイクルを意識した教育活動を展開できるよう職員研修を進めたい。	○今は、１８歳で成人する時代。中学生のあるべき姿はどんな姿であるのか？将来、どうしたら幸せになれるのか？そのために今つけるべき力とは？といったことも学校で真剣に考える場をつくってほしい。 ○学校は地域が守る。先生は地域が守る。一中の先生には、自信を持って教育活動を行ってほしい。
				保護者	70.5%			
				教師	87.1%			
		18	・総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。（９０％）	生徒	85.7%	A		
				保護者	未実施			
				教師	92.5%			

学校関係者評価を受けてのまとめ
コロナ禍を経て平時の教育活動が戻りつつあるなか、評価の数値はやや低下傾向にある。保護者、地域、生徒の学校教育への期待値が高まった結果とも考えられる。今後もコミュニティ・スクールの利点を生かし保護者・地域住民を学校の教育活動に巻き込むことで信頼関係を深め、学校運営の改善やなかいずみ学府として取り組んでいる「誇り」高く「心」しなやかに「夢」はぐくむ子どもの育成をさらに推進していきたい。また、その中で、生徒の心に寄り添い、きめ細やかな、温かみのある生徒指導、主体的に考え協働して課題を解決する生徒の育成を意識した授業改善の継続と共に生徒が主体となって取り組む特別活動の充実に努めたい。